

# 公益社団法人 信和会 看護奨学生だより

2025年9月号

京都民医連あすかい病院 院長 中川裕美子



看護師をめざすみなさんへ 「笑顔の大切さ・・・」  
どんな仕事でも当然ですが、特に医療・介護の分野では本当に大切です。患者さんは体も心も弱った状態でやってこられます。そのときにマスクをしていても笑顔で接し、つらさに寄り添うように優しくお話をお聞きする必要があります。私自身若い頃に病気をしておこなった看護師さん達の笑顔から元気をいただきました。病気になると誰でも弱者になります。やっとの思いであすかい病院にたどり着いた方が「思いきって受診してよかった。一人で苦しんでいました」と言ってくださいました。当院はお金がなくて医療にかかれない方々を70年以上前から支援してきた病院です。患者さんもスタッフの皆さんもみんな笑顔になれるようにしていきたいと思っています。

公益社団法人信和会 看護部長 鴨川聡子



看護学生の皆さん、今年はどうな夏を過ごされましたか？ 関西では、梅雨が極端に短く6月から真夏の暑さになりました。京都では、最高気温を何度も更新する猛暑になり、9月に入ってから暑さが続いています。酷暑と言えるここ数年の夏は、やはり気候温暖化の影響だと言われています。医療や介護・福祉は、地球環境と直接関係が無いように思われますが、治療や処置で使用している医療器具や日常で使用するケア用品は、ほとんどが使い捨てです。感染管理上、資源としての再利用も出来ません。そして、それらがゴミとして廃棄される時には、多量のCO<sub>2</sub>を排出することになります。一見、関係が無さそうなことでも掘り下げていくと関連性がみえてくるものです。患者・利用者を取り巻く環境は複雑です。看護学生の皆さんには、表面上だけでなく、社会全体もみていく広い視野を持っていただきたいと願っています。

京都民医連あすかい病院 看護部長 征矢陽子



みなさん、暑中すぎても残暑ですね。暑さに負けず、食べて寝て勉学に励めていますか。なぜ、こんな温暖化が進んでしまったのでしょうか。調べる術を持っている皆さんなので、熱中症にならないようにできることを考えてみてください。今、看護師になるために学習し、学費や生活費を確保するために努力していることでしょうか。学んでいる専門知識や技術の根拠探しができるとう理解が進むと思います。なぜ？なんで？を繰り返して調べる習慣を・・・。学業も自分の置かれている状況でも、疑問を持ってみると意外に道しるべが見つかるかもしれませんよ。レジリエンスを高めていこう。

京都民医連あすかい病院 副看護部長 物部理奈



少しずつ秋の風を感じる季節になりましたね。  
夏季休暇が明け、勉強や実習の再開、試験もあり忙しい日々がはじまりました。勉強や実習に追われて、くじけそうになる時もあると思います。小さな一歩でも「今の自分」を大切に重ねていけば、その積み重ねてきた努力は、必ず誰かの支えとなる力に変わっていきます。  
看護学生として過ごす時間を楽しみながら、自分を信じて、穏やかな気持ちで歩んでくださいね。

## 法人・病院の取り組み紹介

# 七夕コンサート



7/10(木) 外来待合スペースにて「七夕コンサート」を開催しました！  
コロナ禍を経て、なんと6年ぶりの開催でした。



病棟の患者さんおよそ30名が職員見守りのもと1階の外来フロアに集まり、にぎやかなひとときを過ごされました。

### 〈プログラム〉

- ・オカリナ演奏
- ・フラダンス
- ・ハンドベル演奏



まずは、地域の方々に結成されたオカリナサークルの皆さんが素敵なオカリナ演奏を披露。童謡「たなばたさま」の演奏ではみんなで歌を歌って楽しみました。

その後、医師、看護師、事務ら職員有志で結成されている「フラダンスサークル」がしなやかかつ優雅な踊りを披露。夏らしくさわやかな衣装も素敵でした♡

最後にリハビリテーション部の職員が「ハンドベル」を演奏し、フロアに息の合ったハーモニーが響きわたり癒しの空間が広がりました。

あすかい病院では病棟や外来などでも患者さんに楽しんでもらえる音楽会を定期的で開催しています。患者さんが気分転換となる癒しの時間をみんなとともに。





# 原水爆禁止世界大会



今年是被爆 80 年。毎年開催される原水爆禁止世界大会が今年は広島と長崎にて開催されました。8/4～6 で開催された広島大会にあすかい病院からは 4 名の職員が参加。そのうち看護部からも 2 名参加しました。参加した看護師 2 名に感想を伺いました！

緩和ケア病棟で看護師をしている林田です。今回初めて、広島の原水爆禁止世界大会に参加させていただきました。原水禁はその名の通り、核兵器廃絶を訴える集会であり、本年度は広島と長崎に原爆が投下されてから 80 年という節目でもあり、全国各地だけでなく、海外からも多くの方が参加されていました。

被爆者の方々の体験のなかで印象的であったのは、みな揃ってよく晴れた日であったと言われるなど、あの日のことを鮮明に覚えておられたことです。決して忘れることのできない記憶なんだと感じました。原爆により、多くの方が亡くならただけでなく、生き残った被爆者の方も、友人や家族が亡くなり、自分も放射線被爆によりいつ亡くなるかもしれない恐怖におびえながら、周囲の人からは放射能が感染するのはとの差別にさらされながら生きてこられました。体験を聞き、改めて核兵器が決して存在してはいけないものであると感じました。

緩和ケア病棟  
林田慈人さん



往診センター  
高田祐子さん



戦後 80 年の世界大会にあすかい病院は 4 名で参加し、被爆者の証言や各国からの声に触れ核兵器廃絶の思いが世界に広がっていることを実感しました。

特に私は高校生が英語で炎天下の中紙芝居をしながらスピーチをする姿に心を動かされ「核兵器のない世界をつくる」という思いが世代を超えて受け継がれていることを確信しました。広島では一瞬で 7 万人、そのうち 6 千人もの中学生が犠牲となったことも今回知りました。生き残った方々は「二度と繰り返してはならない」と訴え続けています。

希望は核兵器禁止条約です。日本が率先すべきだと強く思いました。一人一人が「知ること」「小さな事でも行動すること」これがとても大切だと感じた 3 日間でした。

## あすかい病院 放射線課

あすかい病院放射線課は男性 3 名、女性 3 名のスタッフで現在構成されております。

主な撮影業務は一般撮影検査のほかに透視検査、乳房検査、CT、MRI、病棟のポータブル撮影を行っております。夜間帯も拘束業務を担っておりますので、救急患者さんの撮影にも 24 時間対応しております。

患者さんは大きな機器を目の前にすると緊張してしまいますし、「放射線」の目に見えないその性質故に放射線検査自体に不安を感じる方も少なくありません。患者さんが少しでも安心して検査に入っていただけるような環境・雰囲気作りをスタッフ一同心がけております。

日進月歩の医療の世界。

学ぶ姿勢は常に忘れず！医療を陰から支えます！



## あすかい病院 キラッと看護の紹介



### 緩和ケア病棟主催 Kids 夏祭り～子どものグリーフケア～

8月2日、緩和ケア病棟主催で子どものグリーフケアを目的とした「Kids 夏祭り」を開催しました。グリーフケアとは、愛する家族との死別後、遺族がグリーフワーク（喪の作業）を十分に行い、新しい出発することを支援することを言います。

今回参加してくれたのは、小学6年生の女の子とお母さんです。3年前、お父さんを病気で亡くしました。今回の企画にはお父さんが入院中に緩和ケア病棟でかかわった医師や看護師、相談員、セラピスト、そして在宅で関わった訪問看護師の計8名が参加。一緒に遊んで作って楽しみました。

参加したお母さんから、「先日はありがとうございました。娘も、とても喜んでいました。感謝の気持ちでいっぱいです。皆様の優しさに包まれた時間で、私も楽しい時間を過ごせました。」と後日感謝のメールが届きました。



## 東山診療所 看護部の紹介

東山診療所は創立60年です。

2021年、老朽化に伴い現地建て替えを開始し2022年3月リニューアルオープンしました。



訪問診療は現在約130名の患者さんを担当しています。

訪問診療ではさまざまな疾患の患者さんがおられ、さまざまな対応があります。そして自宅でのお看取りもしています。患者のけいさんは100歳近くまで診療所に通院されていました。だんだん足が弱くなり通院が厳しくなったので訪問診療へ切り替えました。最期まで慣れ親しんだ家で過ごしたいと常に言われており、106歳になり、家族に見守られて永眠されました。そして今はご家族が患者さんとして外来に通院されています。

看護ケアは続き、つながっていきます。

私たちは地域まるごとの「あんしんのもと」になりたいと思っています。

